

平成29年度 「ほっかいどう遺産WAON」 助成活動報告



平成29年1月20日
NPO法人北海道遺産協議会



北海道遺産
Hokkaido Heritage

平成29年度「ほっかいどう遺産WAON」助成先一覧(計20件900万円)

No.	遺産の名称	地域	団体名称	活動の名称	助成額
1	五稜郭と箱館戦争の遺構	函館市	五稜星(ほし)の夢実行委員会	五角形の堀を輝かせる「五稜(ほし)星の夢イルミネーション」事業	1,000,000
2	北海道大学 札幌農学校第2農場	札幌市	北海道大学総合博物館	札幌農学校第2農場を活用した北海道遺産の発信プロジェクト	1,000,000
3	アイヌ口承文芸、江差追分	白老町、江差町	一般財団法人アイヌ民族博物館	「カミマイウタ2017」郷土伝統芸能の交流	500,000
4	サケの文化、石狩川	石狩市	一般社団法人石狩観光協会	まちの魅力を伝承する市民ガイドスキルアップ事業	500,000
5	天塩川	下川町	EzoCup2017実行委員会	EzoCup2017チェンソーアートマスターズコンペティション	500,000
6	アイヌ語地名	紋別市・滝上町	しょこつがわ連携研究会	松浦武四郎が遡った渚滑川をアイヌ語地名で辿り地域資源として発信するプロジェクト	500,000
7	開拓使時代の洋風建築、小樽みなとと防波堤、ニッカウヰスキー余市蒸溜所、アイヌ語地名、サケの文化 など	札幌市	北海道観光おもてなしタクシー乗務員認定機構	「夢大地北海道ガイドタクシーで巡る北海道遺産」PR活動	500,000
8	北海道の馬文化(どさんこ)	札幌市	北海道和種馬保存協会	北海道和種馬雄馬名鑑作成事業～北海道遺産を引き継ぐ雄馬たち～	500,000
9	北海道のラーメン	旭川市	北の恵み 食べマルシェ実行委員会	北・北海道のラーメン大集合&PR事業in食べマルシェ	500,000
10	ニッカウヰスキー余市蒸溜所	余市町	一般社団法人余市観光協会	「ニッカ蒸溜所冬のナイトツアー」実施 プロジェクト	500,000
11	旭橋	旭川市	福吉カフェ旭橋本店、旭橋を語る会、ロータリー商店街、旭川大学	旭橋・架橋85周年記念事業	450,000
12	開拓使時代の洋風建築(旧永山武四郎邸など)	札幌市	一般社団法人 下町づくり社	旧永山武四郎邸でつながる、さっぽろ下町まちあそびワークショップ	400,000
13	札幌苗穂地区の工場記念館群	札幌市	福山醸造株式会社、サッポロビール株式会社、雪印メグミルク株式会社、日本清酒株式会社	身近に感じる北海道遺産ツアー～苗穂地区を巡り遺産に触れる旅～	400,000
14	空知の炭鉱関連施設と生活文化	夕張市	一般社団法人清水沢プロジェクト	夕張の記憶を記録にする「夕張市民8600人総レジェンド化」プロジェクト	350,000
15	昭和新山国際雪合戦大会	壮瞥町	昭和新山国際雪合戦実行委員会	昭和新山国際雪合戦30周年記念	300,000
16	北海道遺産21件	道内各地	株式会社福本工業、北海道科学大学	北海道遺産パノラマVR撮影・制作・サイト公開	300,000
17	函館西部地区の街並み	函館市	箱バル不動産	函館西部地区における暮らしと街並み 函館移住計画2017	300,000
18	ジンギスカン	札幌市	北海道遺産ジンギスカン応援隊	ジンギスカンクエスト	200,000
19	アイヌ語地名、登別温泉地獄谷	白老町、登別市	アヨロ ラボラトリー	アートによって白老・登別のアイヌ語地名と、地獄谷の魅力を発信するプロジェクト	150,000
20	旧国鉄土幌線コンクリートアーチ橋梁群	上士幌町	NP0法人ひがし大雪アーチ橋友の会	北海道遺産・コンクリートアーチ橋梁群 散策地図作成事業	150,000



1. 五角形の堀を輝かせる「五稜(ほし)星の夢イルミネーション」事業

- 実施主体：五稜星(ほし)の夢実行委員会
- 実施団体URL：<http://hakodate.to/hoshinoyume/>
(五稜星(ほし)の夢実行委員会)
- 助成額：1,000,000円

ー活動内容ー

- イルミネーション点灯事業は、「特別史跡・五稜郭跡」（通称・五稜郭公園）の内堀の周囲約1.8kmに、約2,000個の電球を取り付けて、冬季の夜更けが早い時期の夜間の観光対策や市民へのアピールとしても貢献しており、冬季の恒例行事としてすっかり定着している。
- 助成金は、主に「古い電線交替」約500m「電球のLED化」220個「防水ソケット」200個「網掛けタイプLED照明」26枚などに使用。11月の設置と3月の撤収は、関係団体職員のほかに、市立函館と函館工業両高校の野球部生徒もボランティアとして参加し、総勢約130名の協力を頂いた。
- 期間中の点灯時間帯17時～19時（タワー営業時間）には、約13,000人の観光客がイルミネーションを楽しんだ。



遺産の名称：
「五稜郭と箱館戦争の遺構」
(函館市など)



箱館戦争は明治元年秋の旧幕府脱走軍の侵攻に始まり、翌年春の新政府軍の反撃により、五稜郭開城で終わった。戦いは道南一帯に及び遺跡や遺構が随所に見られる。榎本武揚率いる旧幕府脱走軍が上陸した鷲ノ木、蝦夷島臨時政権の根城となった五稜郭や急ぎ造成された四稜郭、猛攻を受けた福山城、開陽丸が沈没した鷗島沖、新政府軍が上陸した乙部海岸、激闘の二股口、土方歳三が戦死した一本木関門など、戦いのすさまじさを偲ばせる。

2. 札幌農学校第2農場を活用した北海道遺産の発信プロジェクト

- 実施主体：北海道大学総合博物館
- 実施団体URL：<https://www.museum.hokudai.ac.jp/>
(北海道大学総合博物館HP)
- 助成額：1,000,000円

一活動内容（概要）一

- 総合博物館来館者を札幌農学校第2農場へ誘導する持ち歩き散策マップをアーティストとのコラボで制作。10月半ばから館内ほかで配布した。
- 第2農場見学ツアーを10月28日～11月3日の5日間実施。のべ300名の参加者にアーティストとコラボして制作したオリジナルトートバッグを配布。参加者が日常的に使用してもらうことで波及的な周知を狙った。ガイドツアー参加者を対象に来場歴などを尋ねるアンケートも実施した。
- 第2農場への主要な誘導元となる総合博物館来館者を対象にしたアンケートも実施。キャンパス内の回遊的散策行動などを分析する材料となった。
- 第2農場に足を運んでもらう仕掛けとして、第2農場を紹介するデジタルサイネージ用のデータを制作。4月末以降の屋内一般公開期間に総合博物館で放映する。



遺産の名称：
「北海道大学 札幌農学校
第2農場」
(札幌市)



「札幌農学校第2農場」は、クラーク博士の大農経営構想により、明治10年に建築した模範家畜房（モデルバーン）や穀物庫（コーンバーン）をはじめとするわが国最古の洋式農業建築群を揃えており、ここから日本の畑作・酪農の技術普及が進んだ。施設内には、明治初期に輸入したアメリカ製畜力機械など、近代農業史を語る貴重な資料も展示されており、例年春から秋には一般公開も行われている。

3. 「カミマイウタ2017」郷土伝統芸能の交流

- 実施主体：一般財団法人アイヌ民族博物館（白老町）
- 実施団体URL：<http://www.ainu-museum.or.jp/>
（一般財団法人アイヌ民族博物館HP）
- 助成額：500,000円

一活動内容（概要）一

●「アイヌ口承文芸」と「江差追分」との伝統芸能コラボレーションとして、双方地域においてイベントを実施。地域活性化の推進、継続した交流活動の中での北海道遺産構想の発信拡大、事業推進での機運醸成を図る活動発信の告知物制作を行った。

【白老町実施】 カミマイウタ2017「江差追分郷土芸能特別公演inしらおい」

日程：①2017年6月18日（日） ②2017年8月27日（日）

会場：アイヌ民族博物館

【江差町実施】 一般財団法人アイヌ民族博物館・江差追分会連携協力に関する協定締結式

日程：2017年7月30日（日）

会場：江差町文化会館



遺産の名称：
「アイヌ口承文芸」
（北海道各地）



アイヌ民族が育んできた文化「口承文芸」は人から人へ、長い間、途切れることなく語り伝えられてきた。語り手の話を聞いて楽しみ、味わうことで伝えられてきたもので、英雄叙事詩、神謡、散文説話などがある。サコロベ、ユカラなどと呼ばれる英雄叙事詩は、短いメロディーを繰り返しながら、空を飛ぶなど超人的な行動も含まれる壮大なストーリー。



北海道遺産
Hokkaido Heritage

4. まちの魅力を伝承する市民ガイドスキルアップ事業

- 実施主体：一般社団法人石狩観光協会
- 実施団体URL：<http://www.ishikari-kankou.net/>
(一般社団法人石狩観光協会HP)
- 助成額：500,000円

一活動内容一

●石狩市の「サケの文化」を象徴するとともに、北海道の母なる川「石狩川」の恩恵を受けて発展を続けた本町地区をはじめ、市内では様々な市民ガイド団体が活躍し、まちの魅力を発信している。しかし、担い手がなかなか増えないことや、知識の幅を広げるスキルアップの機会が少ない事が課題となっていた。そこで、全国的にも有名な着地型観光プランナーの「オダギリ サトシ」氏（㈱インブリージョン 代表取締役）を招請し、ガイドの心得やテクニックを学習する講座を開催した。

**まちの魅力を伝承する
市民ガイドスキルアップ講座**

主催：一般社団法人石狩観光協会 共催：石狩市、いしかりガイドボランティアの会

歴史や自然など、まちの魅力を市内外の方に伝える「ガイド」。皆さんに、心から楽しんでもらうための心得や上手な知識の伝え方を教えます。

講師はオダギリサトシさん

株式会社インブリージョン代表取締役（東京都）
大学卒業後、自動車販売会社勤務を経て、地産地消を目的としたショップ「オダギリ」を創業。現在は、まちの魅力を伝えるためのスキルアップ講座、研修などを実施中。平成21年には、標津町のふるさと大使に任命された。北海道各地の自治体や観光協会などの事業アドバイザーとして、まちの魅力を伝えるためのスキルアップ講座、研修などを実施中。また、人材の育成などのコンサルティング業務も行っている。自らもまちの魅力を伝える活動をしている。

注：1. ためきの講座は要予約

3月6日(火) 座学・3月16日(金) 演習
10:00～12:00・石狩市役所401会議室

講座は2日間で完結する内容となっているため、両日の受講が必須となります

参加対象：石狩市内で既にまちのガイドとして活動している方、または、石狩市内でのまちのガイド活動に興味がある方

定員：40人程度（先着順）

申込は2月21日(水)まで

申込先：石狩市観光協会 観光担当
TEL: 011-221-3157 FAX: 011-221-3158 E-mail: kankou@city.ishikari.hokkaido.jp

協賛：AEON MaxValu

講師は、イオン・北見観光株式会社・マックス・イオン・北海道観光協会・観光協会・観光協会の提携により実施します。



遺産の名称：
「サケの文化、石狩川」
(北海道各地、流域市町村)



サケは北海道を代表する食材。その歴史は古く、石狩市では、縄文時代の遺跡からサケを捕獲したと推定される仕掛けが発見されている。母川回帰は生命のドラマを生み、自然環境保護の目に見える指標でもある。サケ漁がさかんな標津町では、サケのことをもっと知ってもらおうと、平成21年に「標津町サケマイスター制度」を創設した。

5. EzoCup2017チェーンソーアートマスタースズコンペティション

- 実施主体：EzoCup2017実行委員会
- 実施団体URL：<https://www.town.shimokawa.hokkaido.jp/index.html>
(下川町HP)
- 助成額：500,000円

ー活動内容ー

- チェーンソーアートは1本の丸太からチェーンソーを駆使し作り上げる彫刻芸術であり、北海道唯一のチェーンソーアート大会を開催した。
- 今年の作品テーマを「生命の川～天塩川～」とし、天塩川をイメージした作品を制作した
- 来年度の大会で使用する原木を天塩川流域の市町村である中川町・美深町から調達して活用することで、北海道遺産である天塩川を身近に感じてもらうことに繋がった。

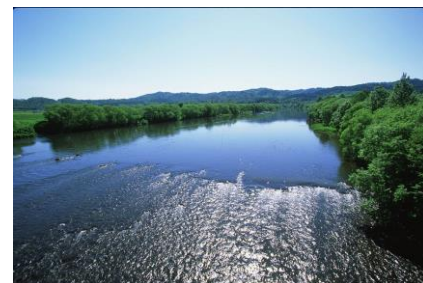
開催日 平成29年7月7日（金）～ 平成29年7月9日（日）

場所 下川町桜ヶ丘公園内

延来場者数 約1,700名



遺産の名称：
「天塩川」（流域市町村）



天塩川は延長256km、北海道第2位の長大河川。松浦武四郎は天塩川内陸調査の途上で「北海道」の命名をしたとされる。川の名前の由来となったテッシ（アイヌ語で「梁」（やな）の意味）が数多く点在し、河口までの160kmを一気に下ることができる日本有数のカーブ適地としても知られ、愛好者たちは20ヶ所のカーブポートから大河を下っていく。

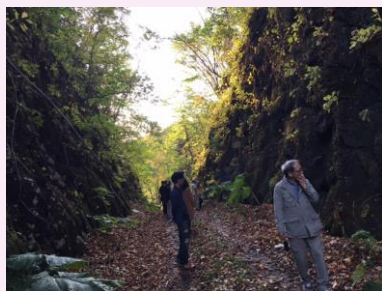
6. 松浦武四郎が遡った渚滑川をアイヌ語地名で辿り地域資源として発信するプロジェクト

- 実施主体：しょこつがわ連携研究会（紋別市・滝上町）
- 実施団体URL：<https://www.facebook.com/syokotsu/>
（しょこつがわ連携研究会Facebookページ）

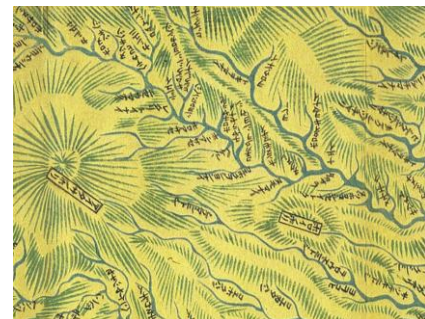
■ 助成額：500,000円

ー活動内容ー

●松浦武四郎が遡った渚滑川とその周辺のアイヌ語地名を紹介する取組として、資源調査やワークショップ、パネル展、フォーラムを開催。文献等で調査した内容をパンフレットとパネルにして配布・展示し、広く武四郎の偉業と渚滑川について周知した。



遺産の名称：
「アイヌ語地名」（北海道各地）



北海道の地名の約8割はアイヌ語に由来するとされている。アイヌ語地名の多くは、知らない場所でも、その名から地形や位置づけが分かるものとなっている。現在は片仮名や漢字で表記され原音と異なる場合もあるが、本来はアイヌ民族の自然と調和した伝統的生活の中から歴史的に形成された。アイヌ文化の自然観などを理解する重要な手がかりとなっている。

7. 「夢大地北海道ガイドタクシーで巡る北海道遺産」PR活動

■ 実施主体：北海道観光おもてなしタクシー乗務員認定機構（札幌市）

■ 実施団体URL：<http://yumedaichi.visit-hokkaido.jp/>
（夢大地北海道ガイドタクシーのページ）

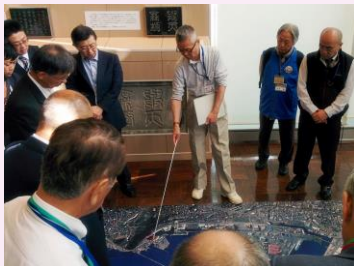
■ 助成額：500,000円

一活動内容一

●認定乗務員向けに北海道遺産を学ぶ研修を行ない、遺産をガイドするための知識向上を図った。
。実地研修3回、座学研修3回、試験4回。

●札幌近郊の北海道遺産をタクシーで巡るモデルルートを提案するマップを作成。認定乗務員（約400名）のほか、北海道さっぽろ「食と観光」情報館（札幌駅）、どさんこ旅サロン（東京）等に設置し、北海道遺産の普及と観光タクシーの利用促進を図った。

●北海道遺産周遊マップの配布や、ウェブページでの紹介を通じて北海道遺産をPRした。



遺産の名称：

「開拓使時代の洋風建築」
（札幌市）など



札幌市時計台や豊平館は、北海道開拓の初政をになった開拓使の事績を伝え、文明開化の先端をいった北海道の気風をよく表している。時計台は札幌のシンボルであり、近年は2階ホールが音楽会などの場として親しまれている。明治初期の洋風建築は和洋折衷型も含め、工業局庁舎、清華亭、永山邸、札幌農学校の農場建築などが遺されている。

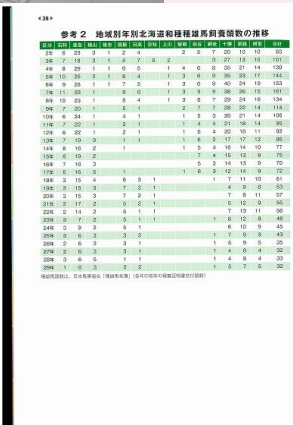
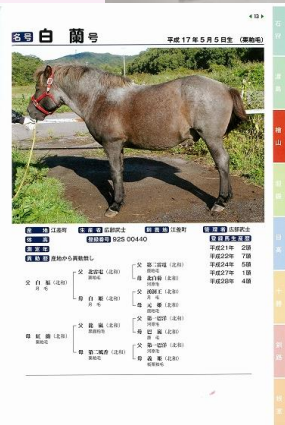
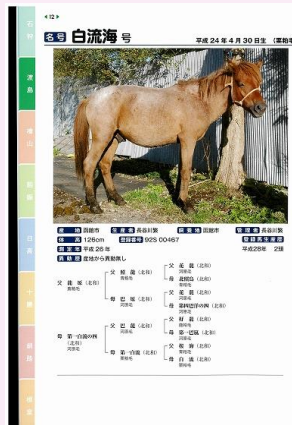
8. 北海道和種馬雄馬名鑑作成事業～北海道遺産を引き継ぐ雄馬たち～

■ 実施主体：北海道和種馬保存協会

■ 助成額：500,000円

一活動内容一

●北海道和種馬雄馬の血統情報や生産馬情報、毛色など個体情報、異動歴、当該種雄馬の共進会褒賞歴、当該種雄馬と交配して生産された馬の共進会褒賞歴並びに当該馬の写真を撮影して掲載した冊子、「種雄馬名鑑」を編集・印刷して会員や関係者、国会図書館、大学図書館、道立図書館等に配布した。印刷部数150部、掲載頭数33頭、その内写真のない馬3頭。



遺産の名称：
「北海道の馬文化（どさんこ）」（北海道各地）



北海道の馬の歴史は古く、明治期には農耕など開拓の労働力として人々と苦勞をともにしてきた。農耕馬の力を試したお祭りばん馬は「ばんえい競馬」に発展し、現在は帯広市のみで開催されている。また、速さを求めてはサラブレッドの改良が進み、浦河町の「JRA日高育成牧場」では世界に通用する強い馬づくりに取り組んでいる。また馬産地・日高の牧場風景は観光資源にもなっている。

9. 北・北海道のラーメン大集合 & PR事業in食べマルシェ

- 実施主体：北の恵み 食べマルシェ実行委員会（旭川市）
- 実施団体URL：<http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/marche/>
（旭川市HP）

■ 助成額：500,000円

一活動内容一

- 平成29年9月16日（土）及び17日（日）、旭川市内中心部で開催された「北の恵み 食べマルシェ2017」の会場において、北海道遺産全般及び北海道のラーメンのPRを行いました。
- 会期の3日目（9月18日）は、台風の接近により中止となりましたが、1日目及び2日目は快晴で、2日間で延べ856,000人の来場があり、大いに賑わい、北海道遺産について広くPRすることができました。

（取組内容）

- ・北海道遺産ラーメンゾーンの展開
ラーメンゾーンで北海道遺産PRのために制作したのぼり旗を設置・PR
- ・北海道遺産PRブースの設置
北海道遺産協議会のPR用タペストリーやパネル展示、PR用DVDを上映。
北海道遺産及びラーメンに係る小冊子やリーフレットを配付。
- ・食べマルシェ2017公式ガイドマップおよび会場案内看板への北海道遺産PR広告掲載



遺産の名称：
「北海道のラーメン」（北海道各地）



ラーメンの起源は諸説あるが、戦後急速に北海道民の食生活の中に定着し、寒冷な気候から、コクがあり濃い味のラーメンが、北海道の代表的な食文化として発展した。ラーメンは、北海道の観光資源としても欠かせない存在であり、札幌・函館・旭川・釧路など、地域ごとに特色を持ったラーメンが脚光を浴び、ご当地ラーメンブームの火付け役となった。

10. 「ニッカ蒸溜所冬のナイトツアー」実施 プロジェクト

- 実施主体：一般社団法人余市観光協会（余市町）
- 実施団体URL：<http://yoichi-kankoukyoukai.com/>（余市観光協会HP）
- 助成額：500,000円

ー活動内容ー

- 冬季、減少するニッカウヰスキー北海道工場余市蒸溜所を訪問する観光客へのアプローチとして、「ニッカ蒸溜所冬のナイトツアー」を開催。
- JR余市駅前公園にウイスキーの町をイメージするメープルゴールドのイルミネーションを設置。ナイトツアー開催日はJR余市駅のイルミネーションからニッカ蒸溜所の正門までワインボトルキャンドル150本を灯し、ニッカ蒸溜所内はウイスキーボトルとオリジナルシェードとローソクの灯りで工場内を幻想的にライトアップ。ツアーは各回共に事前予約で定員の40名に達しアンケートでは、98%の方から「満足した」と高評価を頂いた。
- ライトアップ作業はボランティアを募集し実施。イベントの認知度も向上している。

《ナイトツアー開催日程》12月16日、1月13・20・27日、2月3日（計5回）



遺産の名称：

「ニッカウヰスキー余市蒸溜所小樽みなとと防波堤」（余市町）



理想のウイスキーづくりをもとめた竹鶴政孝は、澄んだ空気と夏でもあまり気温の上がない気候に加え、余市川の良質な水にも恵まれた余市町をその適地として選んだ。ニッカウヰスキー余市蒸溜所は昭和11年、ポットスチルに火が点じられてモルトウイスキーの製造が開始されて以来、当時と変わらない製法でウイスキーの蒸溜、貯蔵を行っている。

11. 旭橋・架橋85周年記念事業

- 実施主体：福吉カフェ旭橋本店、旭橋を語る会、ロータリー商店街、旭川大学（旭川市）
- 実施団体URL：<https://www.fukuyoshicafe.com/>（福吉カフェHP）
- 助成額：450,000円

ー活動内容ー

- 北海道遺産「旭橋」架橋85周年記念パンフレットを作成し配布
部数／100,000部（仕様 A4観音開 両面カラー） 内容／旭橋の歴史・旭橋周辺マップ
- 旭橋コレクションギャラリーを設置
場所／福吉カフェ旭橋本店内（旧北島製粉所）期間／平成29年10月14日～
内容／旭橋に関連する品々の常設展示



遺産の名称：
「旭橋」（旭川市）



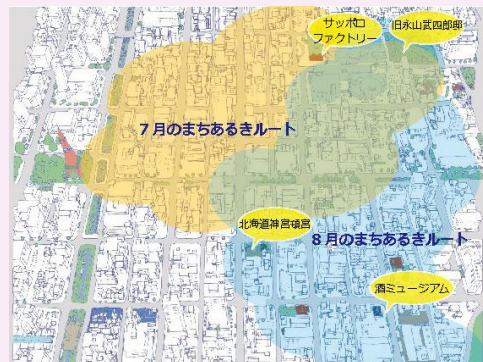
「いくつもの時代と思い出を刻みながら、人々の暮らしをみつめてきた橋があります」－『旭橋』という名の豆本の書き出しである。旭橋は道北の中心都市旭川を流れる石狩川に架かる橋で、明治25年、現在の位置に土橋が架けられたのに始まり、昭和7年、鋼鉄製のアーチ曲線を描く橋が、当時の最新技術をもって竣工した。川のまち・旭川の象徴。

12. 旧永山武四郎邸でつながる、さっぽろ下町まち

- 実施主体：一般社団法人 下町づくり社（札幌市）
- 実施団体URL：<http://sapporo-shitamachi.com/>（下町づくり社HP）
- 助成額：400,000円

一活動内容一

●「旧永山武四郎邸」周辺には、札幌の開拓使時代からのまちの原風景となっている建物が多く遺っています。これらの歴史的資源とまちづくりのストーリーにスポットを当てたまちあるきと、永山記念公園での植物ガイドツアーや自然遊び、公園改修体験をプログラムにした連続ワークショップを開催。連続ワークショップのまとめとして、まちあるきで見つけた地域の魅力をまとめた「まちあるきMAP」を制作。



遺産の名称：
「開拓使時代の洋風建築」
（札幌市）



札幌市時計台や豊平館は、北海道開拓の初政をになった開拓使の事績を伝え、文明開化の先端をいった北海道の気風をよく表している。時計台は札幌のシンボルであり、近年は2階ホールが音楽会などの場として親しまれている。明治初期の洋風建築は和洋折衷型も含め、工業局庁舎、清華亭、永山邸、札幌農学校の農場建築などが遺されている。

13. 身近に感じる北海道遺産ツアー～苗穂地区を巡り遺産に触れる旅～

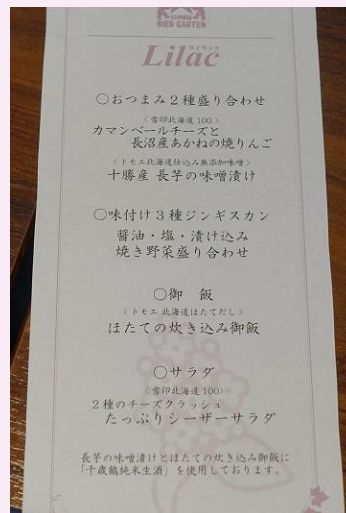
■ 実施主体：福山醸造株式会社、サッポロビール株式会社、雪印メグミルク株式会社、日本清酒株式会社（札幌市）

■ 実施団体URL： <http://www.tomoechan.jp/>（福山醸造HP）

■ 助成額：400,000円

一活動内容一

- イオン北海道、マックスバリュ北海道のチラシ告知を通じて、15組30名をツアーにご招待。
- 苗穂地区工場・記念館群である雪印メグミルク酪農と乳の歴史館、千歳鶴工場見学、サッポロビール博物館を見学し、サッポロビール園にて北海道遺産でもあるジンギスカンを食べた（各社の商品を使った特別メニューを組み込んだランチ）。
- バス移動時に関係者から取り組み組についての説明を行なうと共に、昼食時の抽選会を行い、参加者の方々は楽しみながら北海道遺産について学ぶことができる良い機会となった。



遺産の名称：
「札幌苗穂地区の工場・
記念館群」（札幌市）



札幌市の創成川以東は、豊平川の伏流水や貨物輸送の利便性などによって明治期から「産業のまち」として栄え、今も福山醸造をはじめ、さまざまな工場や倉庫がひしめき、下町的な雰囲気を残している。苗穂駅近隣にある北海道鉄道技術館、サッポロビール博物館、酪農と乳の歴史館は内容も充実し、北海道の産業史を知る上でも貴重な記念館群を形成している。

14. 夕張の記憶を記録にする「夕張市民8600人総レジェンド化」プロジェクト

■ 実施主体：一般社団法人清水沢プロジェクト（夕張市）

■ 実施団体URL：<https://www.shimizusawa.com/>
（清水沢プロジェクトHP）

■ 助成額：350,000円

ー活動内容ー

●夕張市民の持つ記憶やまちの記憶を様々な形で記録化し、今を生きるすべての夕張市民が自らの誇りを抱くことを目的とし、以下の事業を実施した。

〔記録〕

- ・旧清水沢小学校校舎解体の記録映像撮影
- ・まちなみのドローン撮影…解体する小学校の撮影や、まちの姿を俯瞰するドローン撮影。

〔記憶の収集とコミュニケーション〕

・菊池史子「忘れない歌」滞在制作コーディネート…夕張市内の閉校した小学校の校歌をテーマに作品制作を行う菊池史子さんの滞在制作をサポートし、証言資料の収集を行った。

・「企画調査展示『清水沢小学校を記憶する調査室』」の実施…清水沢小学校の記憶を集める企画調査展示を実施。卒業生のトークイベントやヒアリングなどで記憶の収集を行い、調査報告書を発行。

・「みんなでつくる夕張の記憶ミュージアム」ウェブサイト の作成…写真資料のアーカイブと、収集という行為を通じて交流を生み出した。



遺産の名称：

「空知の炭鉱関連施設と生活文化」（空知地域）



空知地域は、最盛期の1960年代に約110炭鉱、約1,750万トンの規模を誇る国内最大の産炭地として、北海道開拓や日本の近代化を支えてきた。エネルギー政策の転換により1990年代には全ての炭鉱が閉山したが、立坑櫓や炭鉱住宅、独特の食文化や北海盆踊りなど、今でもヤマ（炭鉱）に関する多くの記憶を残している。

15. 昭和新山国際雪合戦30周年記念

- 実施主体：昭和新山国際雪合戦実行委員会（壮瞥町）
- 実施団体URL：<http://www.yukigassen.jp/>
（昭和新山国際雪合戦実行委員会HP）
- 助成額：300,000円

一活動内容一

- 平成元年に始まった昭和新山国際雪合戦が30周年の節目を迎えるにあたり、中国・フィンランド・北米等からの代表チームを招き、競技普及啓発と情報発信による遺産保全を行った。
- 今回は中国・フィンランド、カナダが参戦し、日本選抜代表チームと史上初の代表試合を開催した。外国語通訳・選手団輸送と交流の送迎バス代金・プログラム（英訳）・イベント会場での案内の一部に助成金を活用した。
- 海外チーム選手は日本のチームとの練習試合をなどを行い、選手同士の交流が生まれ、数多くのメディアが取材に訪れた。
- 代表戦の雪球製造などについては無償ボランティアの協力により運営に多大なる貢献をいただいた。



遺産の名称：
「昭和新山国際雪合戦大会」（壮瞥町）



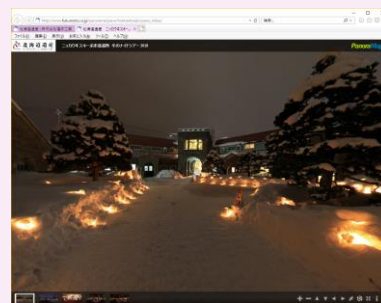
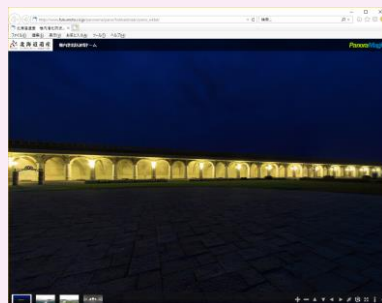
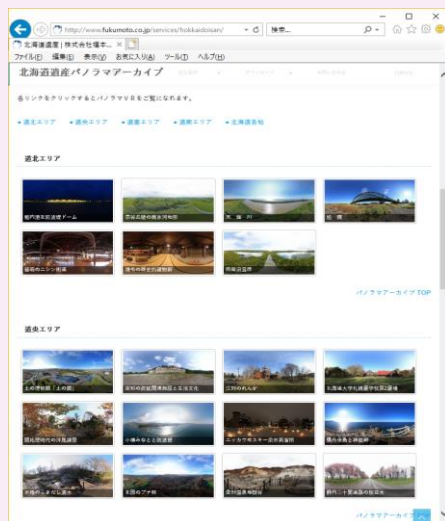
子どもの遊びを、大人が真剣に競う冬のスポーツとして確立したことは、雪国・北海道にふさわしい新しい文化といえる。ルール・用具の開発から、資金集め、企画運営まで地域住民が主体となって進められている。1989年に始まった大会の歴史の中で、まちの若者たちの情熱とアイデアは海を渡り、今では北欧など海外でも「YUKIGASSEN」が開かれている。

16. 北海道遺産パノラマVR撮影・制作・サイト公開

- 実施主体：株式会社福本工業、北海道科学大学（札幌市）
- 実施団体URL：<http://www.fukumoto.co.jp/services/hokkaidoisan/>
（福本工業HP）
- 助成額：300,000円

一活動内容一

- 「北海道遺産」をデジタルコンテンツとして後世に残すことを目的に、15件の北海道遺産の360度全球パノラマVRの撮影及び制作を行った。完成したパノラマコンテンツは特設ウェブサイトにて掲載。（<http://www.fukumoto.co.jp/services/hokkaidoisan/>）
- 成果物は北海道遺産地域での利用ができるように協議会にデータ提供した。



遺産の名称：
「内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群」（函館市、伊達市など）



内浦湾沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函館市の南茅部地域には現在91ヵ所の遺跡が確認されている。また、大船遺跡や垣ノ島遺跡をはじめ、著保内野遺跡で発掘された「中空土偶」は北海道初の国宝に指定されている。伊達市の北黄金貝塚は、縄文早期（7000年前）～中期（6000～4000年前）の遺跡で、住居や全国的にほとんど例のない「水場の祭祀場」が発見されている。

17. 函館西部地区における暮らしと街並み 函館移住計画2017

- 実施主体：箱バル不動産（函館市）
- 実施団体URL：<http://hakobar.com/>（箱バル不動産HP）
- 助成額：300,000円

一活動内容一

●函館西部地区の伝統的建造物保存地区で3ヶ月の移住体験をしてもらった。体験者には2017年12月に開業したゲストハウス・まちやど『SMALL TOWN HOSTEL hakodate』の開業合宿への参加やDIYサポーターも経験してもらった。

●函館らしい暮らしの発見と、移住に向けたサポートも行う宿は、今後継続した函館移住計画の活動へと続いていく。移住体験してくれた方は、スタッフとして残ってくれました。この経験を次へと引き継いでいきたい。



遺産の名称：
「函館西部地区の街並み」
（函館市）



函館は安政6年、横浜、長崎とともに最初に開港し、近代日本の幕開けを告げた町であり、西欧文化に開かれた玄関口として栄えてきた。函館西部地区には、埠頭倉庫群、函館どつく（函館ドック）のような歴史的港湾施設、旧函館区公会堂やハリストス正教会復活聖堂に代表されるハイカラな洋風建築とともに、和洋をたくみに交えてデザインされた商家や住宅が建ち並び。

18. ジンギスカンクエスト

- 実施主体：北海道遺産ジンギスカン応援隊（札幌市）
- 実施団体URL：<http://hokkaido-jingisukan.com/>
（ジンギスカン応援隊HP）
- 助成額：200,000円

一活動内容一

●北海道の食文化「ジンギスカン」を北海道民はもとより、観光客などにも広く伝え、数あるジンギスカンのご協力のもと、ジンギスカン店をまわり、スタンプラリーをして楽しんでいただきました。



遺産の名称：
「ジンギスカン」（北海道各地）



ジンギスカン料理の発祥については諸説があるが、北海道でもっとも広く、かつ特徴的に発達した。大陸にも原型はみられるが、味付けなど羊肉を美味しく食べる工夫が凝らされ、新しい料理として北海道で確立したといえる。観光の魅力の一つであるとともに、花見などでも定番であるジンギスカンは、鍋を囲んで人と人をつなげる役割も果たしている。



19. アートによって白老・登別のアイヌ語地名と、地獄谷の魅力を発信するプロジェクト

- 実施主体：アヨロ ラボラトリー（白老町）
- 実施団体URL：<https://www.facebook.com/ayorolaboratory/>
（アヨロラボラトリーFacebookページ）
- 助成額：150,000円

ー活動内容ー

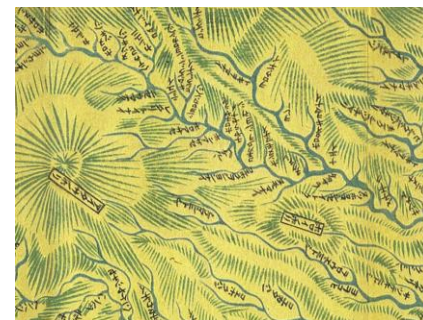
●札幌国際芸術祭（SIAF）2017において、札幌宮の森美術館での「New Map for North」にて石川直樹氏とともに展覧会を行った。同展のなかで、写真や彫刻、絵画、あるいはテキストや北海道博物館から借用した標本展示によって、白老や登別のアイヌ語地名と登別温泉地獄谷の魅力を紹介した。同展は札幌市での国際芸術祭であり、札幌市民や道外からの観覧者だけではなく、国外からの観覧者に向けても英語表記などによって、同地の魅力について紹介した。

芸術祭におけるアーティストによるアイヌ語地名や登別温泉地獄谷に関する作品発表であり、観光宣伝等などとは異なる切り口で同地域を紹介することができた。

●アヨロラボラトリーの活動報告や、アイヌ語地名、登別温泉地獄谷の魅力を発信するために、「アヨロ通信」を発行した。様々なアーティストやライターがアイヌ語地名や同地への関わりを紹介することによって、普段アイヌ語地名や北海道の文化に馴染みのない地域の人たちや、芸術分野の人たちなどにも発信することができた。



遺産の名称：
「アイヌ語地名」（北海道各地）



北海道の地名の約8割はアイヌ語に由来するとされている。アイヌ語地名の多くは、知らない場所でも、その名から地形や位置づけが分かるものとなっている。現在は片仮名や漢字で表記され原音と異なる場合もあるが、本来はアイヌ民族の自然と調和した伝統的生活の中から歴史的に形成された。アイヌ文化の自然観などを理解する重要な手がかりとなっている。

20. 北海道遺産・コンクリートアーチ橋梁群 散策地図作成事業

- 実施主体： NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会（上士幌町）
- 実施団体URL： <http://arch-bridge.sakura.ne.jp/>
（ひがし大雪アーチ橋友の会HP）
- 助成額： 150,000円

一活動内容一

●全国各地からアーチ橋見学に来られる方のために現地の情報をわかりやすく掲載した手作りの散策地図を作成してきた。旧士幌線の鉄道遺産（橋梁7、トンネル1、駅跡1）は北海道遺産や国の登録有形文化財の指定を受けている。今回、これら鉄道遺産の最新情報を掲載した見学者のより便利な改訂版散策地図を作製した。今年はタウシュベツ川橋梁の状況がマスコミ等に大きく取り上げられたこともあって、旧士幌線の鉄道遺産を訪ねる来訪者が増大、現地見学のテキストとして今回、作成した散策地図は大いに貢献した。

遺産の名称：
「旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群」（上士幌町）



昭和初期に十勝内陸の森林資源の運搬を目的に建設された第1級の鉄道遺産。地元住民を中心とした活動で保存が実現された。中でも季節によって見え隠れする「タウシュベツ川橋梁」、32mの大アーチを持つ「第三音更川橋梁」が有名。地元NPOの保存・活用へ向けての活発な活動は全国的にも市民活動のモデルとされている。

